

おかげさま おかげさま

あれを見よ 深山の桜 咲きにけり
真心尽くせ 人知らずとも

(詠み人知らず)

という歌があります。誰の目につくこともなく山奥で咲き、そして散っていく桜のことです。誰かに見られようとも見られまいとも、春になると桜は咲き、そのときを一生懸命に生きているのです。当たり前のこともかもしれません、その姿から学べることは大きいように思えます。

ところで、年始の恒例行事は「箱根駅伝」という方が多いのではないかと思います。快調に走り抜く選手がいる反面、様々な要因で思い通りの走りができない選手もいます。それでもフラフラになりながら「前へ」と懸命に、自分に与えられた区間を走り抜け、倒れ込むように中継点で襷を繋ぐ選手の姿があります。感動と共に、大切なことを教えられる気がします。ここ一番、最も大切なときにも

かわらず、思い通りの走りができない中、沿道から



の大きな声援をなんとか力に変えて、懸命に自分の区間を走り抜いた選手に心から拍手を送りたいと思います。そして勝手に思うことは、この先の人生でどんな状況に直面しても、あの選手ならきつと現実に真摯に向き合い、地に足を付けて乗り越えていくだろうなと思うのです。

私たちも毎日の生活の中で、様々な形でどのように考えて受け入れたら良いのかわからないような、苦悩や悲しみに満ちた場面を迎えなければならぬことがあります。そのような大きな山に直面したとき、一人で乗り越えることは私にはできません。周りの人たちの支えがあればこそ、なんとか乗り越えることができるのです。そのとき、大きなお育てと大切なお縁の中にあつたことに気づかされます。

新たな一年がはじまりました。

平坦な道ばかりではない一年と理解しなければなりません。そのなかにあつて、何度か「おかげさま」ということがあると思います。

できることであれば「おかげさま」とまわりの人から言っていただける場面に関われる私でもありたいと思うことです。そうして共々に前に進んで参りたいと思います。

本願寺長野別院

輪番 齋藤 英明

最近の西本願寺

修復が行われていた本願寺本堂(阿弥陀堂)内陣について、3月に完成するというところで、これまで外陣との間にあつた大きな壁は外されて、巻き障子が閉まつている状態です。4月には「本尊御遷座」ご真影ご動座の法要が勤まります。また、唐門もきれいに修復がされており、多くの方が写真に収めています。



気づいたこと

「自分のことは一番自分が知っている」と思っていました。しかし先日、鼻水が出て、鼻づまりと頭痛がひどいことから検査してもらったところ、鼻の左右の穴を隔てる壁が曲がっており、副鼻腔炎が繰り返されて鼻茸(ポリープ)があると診断されました。鏡を見てもわかりませんが、鼻の中が曲がり、キノコ栽培していたのです。

その処置のために大きな病院を紹介してもらいました。晨朝後に出かけ、受付で必要な手続を済ませ、診察の順番を待ちます。いよいよ呼び出しの番号が来ました。しっかりと診てもらって、すべて済んだことが伝えられ、会計で支払を済ませます。すべて済ませて帰る頃はお昼でした。すでにクタクタです。

大きな病院、たくさんのお患者さん。お年寄りもたくさんいます。あの意味「元氣」じゃないと来られない場所だと思いました。

本願寺長野別院からのお知らせ 2022 新年「冬」


<http://www4.hp-ez.com/hp/naganobetsuin>

春季彼岸会

物故者追悼法要・永代経法要

3月21日(月) 午後1時30分

墓地・納骨堂をご使用の皆さま、数年の間に大切な方を亡くされた方、有縁の方々にご案内いたします。どうぞお参りください。

御命日法要・常例法座

1月16日(日)・17日(月)

講師 井上 慶真 師

(長野県飯山市 正行寺住職)

2月16日(水)・17日(木)

講師 三寄 靈証 師

(福井県勝山市 西宮寺住職)

3月16日(水)・17日(木)

講師 未定

()

※いずれも午後1時30分から

お晨朝(朝のおつとめ)

毎朝7時30分から8時頃まで

毎月16日は親鸞聖人の御命日として、職員全員出勤しておつとめしています。皆さんもぜひお参りください。朝7時30分から『正信偈(行譜)』をおつとめ。

聖徳仏婦例会

毎月17日の常例法座にあわせて開催しています。どなたでもどうぞお参りください。(13時30分)

別院仏壮例会

2月2日(水) 18時から

3月2日(水) 18時から

テーマ『ひらがな正信偈』

講師 鳴倉 崇雄さん(圓長寺住職)

寺小屋 ～子どもの居場所づくり～

お寺を開放しての信大生らによる「またあいこ」の子どもの居場所づくり「寺小屋」活動では、お子さまを預かります。

子どもたちには、遊んだり勉強したり、自分のペースで過ごしていただいています。

また、お父さん、お母さんと一緒に過ごしていただいても大丈夫です。お気軽にお越しください。

1月29日(土)

2月12日(土)

※13時から17時まで



墓地の通路を歩きやすく

予定していた墓地の通路の整備がはじまりました。古いお墓の跡が残っており、それを手作業で砕いて平らにし、碎石を敷いていく作業が進められています。本年度と来年度をかけて全面整備していく予定です。



本堂の階段

最近、「本堂に上がるのに、階段が大変」という声を聞きます。若い頃はなんともなかったが、年をとると……。と言われるように、17段の階段が本堂に向かうための大きな問題になっています。皆さんならどう対処しますか。ご意見を寄せてください。



お葬儀の場所

お寺で葬儀を営むということ

以前にも書きましたが、最近、「お寺の本堂で葬儀はできないのか」という声を寄せていただいたので、あらためて書いてみました。

お寺にはすでに必要な道具がそろっていますので、安心して「お寺」を会場に、大切な方のお葬儀をおつとめすることができます。

気になる費用についても、間違いない負担が軽くなるはず。気になること、具体的なことについてはお問い合わせください。

本堂トイレ改修工事完了

できる限りプライバシーが確保できるように、壁で囲んで個室としました。床や天井、壁紙を新しくし、明るく、清潔になりました。



普段の本堂の様子



長野別院からの手紙 御同朋の社会をめざす運動(実践運動)

実践目標① 貧困の克服に向けて—Dāna for World Peace— 子どもたちを育むために
実践目標② 濁世に生きる一立教開宗の願いを聞く—

アツという間

ある法話集だつたか、何かで読ん



で書き留めたものを思い出しながら引用させていただきます。

年を重ねるにつれて時間が経つのを速く感じるようになります。

子どもの頃は、お正月や夏休みなど、まだかまだかと待っています

たが、最近はまだもう正月が来るのかと思うこの頃です。そうしたなか、

先輩など知人のご逝去の知らせが届きます。今まで親しくしてく

ださっていた方が亡くなられ、もう二度と会うことができないのか

と思うと大変さびしくなります。誰もがそのようになることがわか

つていながらも、つい目先のことに追われながら日々を送っている

のです。

ところで、私たちはこの世に自分で希望して生まれてくることは

ありません。気がついたときには、すでに生まれていたので。そして、自分で男がいいとか、女がいい

とか、そのような希望などもまっ

たく自分の選択や意志は入っていないのです。しかし、

成長するにつれて、学校や

仕事、配偶者など、自分自身で選ん

で決めることができるものが多くな

ります。「運命」という言葉があ

りますが、あたかも決められたレ

ールの上を進められているかのよ

うな表現で用いられますが、「運命

とは「命」を「運ぶ」と書きます。

自分の「いのち」をどういう方向へ

運んでいくのかということが、人

生ではないでしょうか。

生まれてから年を重ねていく。

その中に学校や仕事、結婚などの

生きている上での出来事を織り交

ぜながら人生を完成させていくの

です。ダンマパダ『法句経』という

古い經典の言葉に「頭髮が白くな

つたからとて長老なのではない。

ただ年をとっただけならば、むな

しく老いぼれた人」といわれると

あります。つまり大事なことは、ど

れだけ長生きするかではなく、ど

ういう生き方をしたかということ

です。

今一度、自分がこの世に生まれ

て、生きている。それは何をするた

めなのか。そして、それを実現する

ために「どういう生き方をするの

か」を考えて生きていかなければ

ならないように思います。親鸞聖

人のご和讃に「本願力にあひぬれ

ば、むなしくすぐるひとぞなき。」

とあり、お葬儀では必ずいただく

ご和讃です。精一杯に様々な生き

方がありますが、すでに阿弥陀如

来の大きな願いのはたらきの中

にあったことをお念仏申されるな

か表現されているのです。

私たちも同じ大きな願いの中に

あるのです。

発見

「これより西方

に十萬億の仏土

を過ぎて、世界

あり、名づけて極楽と曰う。その土

に仏まします、阿弥陀と号す。いま

現にましまして法を説きたまう」

と『仏説阿弥陀経』にあります。



お彼岸に際しては、お浄土に往

生された亡き方を偲び、真西に沈

み往く太陽に人生を重ね、帰すべ

き西方極楽浄土に思いをいたし、

今、ここに精一杯生きる我が身を

ふり返りつつお念仏申しましょ

うと表現する私がいま。これはこ

れで間違いではないのですが、秋

のお彼岸で実感したので。

お晨朝のとき、すでに太陽の光

が本堂に差し込んでいました。別

院の本堂はご本尊(阿弥陀如来)が

東を向いていますので、お浄土の

方角である西に向いて合掌礼拝す

ることになります。両手を合わせ

て正面を見ると、差し込んだ光で

金箔が貼られた内陣は光り輝

き、その真ん中にご本尊がお

立ちになられているのです。

なるほど、お浄土は「西」だと

思うのと同時に、光り輝く光

景が一日の活力を与えてくれ

た感じでした。

毎年2回(春秋)、このようなチ

ヤンスがあったのですが、秋のお

彼岸で初めて気づきました。



「浄土真宗のみ教え」について

昨年4月に京都・本山西本願寺での立教開宗記念法要(春の法要)におけるご門主様のご親教「浄土真宗のみ教え」は仏恩報謝の道を歩まれた親鸞聖人の生き方に学び、次の世代にご法義が伝わるよう、その肝要をお示しになられたものです。本願寺長野別院では、み教えがより多くの方々に伝わるようにとのご門主様のお心を真摯に受け止め、このたびの「浄土真宗のみ教え」があらゆる場面で多くの人々に唱和していただけるよう、その普及に努めてまいりたいと思います。

浄土真宗のみ教え

南無阿弥陀仏

「われにまかせよ そのまま救う」の 弥陀のよび声
私の煩惱と仏のさとりは 本来一つゆえ

「そのまま救う」が 弥陀のよび声
ありがとう といただいて

この愚身をまかす このままで
救い取られる 自然の浄土
仏恩報謝の お念仏

み教えを依りどころに生きる者 となり
少しずつ 執われの心を 離れます

生かされていることに 感謝して

むさぼり いかりに 流されず
穏やかな顔と 優しい言葉

喜びも 悲しみも 分かち合い
日々 精一杯 つとめます



仏教

「マニフェスト」という言葉があります。「方針や意図を広く多数の者に向かつて知らせるための文書や演説。声明文・宣言を意味する外来語」で、転じて選挙の折には政権公約を意味する言葉としても使われるようです。この場合、わかりやすく言えば「約束事」と言えます。

政治家の皆さんがその道を歩むにあたりマニフェストを公言され、それを実行するために「どうか私にまかせてくれ」と頭を下げてまでお願いされて、自分(本人)以外の人のために頑張られるのです。

阿弥陀(如来)という仏さまも実は、法蔵(菩薩)の位るとき、仏(如来)をめざして修行する身にあるとき、同じようにマニフェストを示されました。それが四十八願です。その中心となるのが「ご本願」と呼ばれる十八番目の願いです。

余談ですが、絶対にみんなの期待を裏切らないという意味から背番号「18」がエース番号と言われ

ます。また、得意中の得意を「十八番(おはこ)」と言いますが、関係があるようです。

話がそれましたが、本願はすべてのものを阿弥陀如来(仏)と等しい「仏」に仕上げたいというものです。それを必ず成し遂げるための決意が『讃仏偈』『無量寿経』のご文と味わいます。法蔵菩薩が師と仰ぐ世自在王仏のように「無明欲怒 世尊永無(無明と欲と怒りとは仰ぐ仏にたえてなし)」と私たちの姿(凡夫の身)を世自在王仏と重ねられ、凡夫(私)ではどう頑張っても仏にはなることができないありようを見抜かれて、なんと少しでも願いを果たすと「仮令身止諸苦毒中 我行精進 忍終不悔(道を求めてたとい身は、苦難の毒に沈むとも、ねがい果たさんその日までも、しのび励みて悔いざらん)」と覚悟を表現されているのです。その上でのマニフェストが四十八願です。その大きな願いの中に今、私たちは生きているのです。その生き方を問う教えが「仏教」です。